

副詞としての中国語「就」の使い方について

王 愛 武*・陳 月 吾**

The Various Usages of “Jiu” as a Particle in Chinese Language

Ai-Wu Wang and Yue-Wu Chen

The word “Jiu” is used very frequently in Chinese language. It can be used as a verb, particle, adverb and so on. In addition to those, it can else be compounded with other words to make new words. In this paper, I will endeavor to give an account of the usages of “Jiu” as a particle.

As a particle, “Jiu” can be principally used to express as “the limit of time”, “the emphasis on an affirmation” “the limit of range and number”, “the cause and effect” “the emphasis on a short way” and so on. I will try to give an account of the usages of “Jiu” from these five directions in this paper.

始めに

「就」という言葉は中国語の中で極めて頻繁に使われている。「就」は動詞、助詞（中国語では介詞という）、副詞として使われるほかに他の言葉と結びついて、意味のそれぞれ違うな言葉が作り出され、使われることもある。本文では主に副詞としての「就」の使い方について述べてみようと考えておる。

副詞としての「就」の使い方は主に「時間の限定」、「肯定の強調」、「範囲と数量の限定」、「原因・理由と結果」、「距離の近さの強調」という五つの方面にわたっている。以下はこの五つの方面から説明していく。

本 論

一、時間の限定

この文型は、短い時間にある動作がなされ、またはある状態が現れることを表すのである。この「就」は主に「すぐに、じきに」という意味である。それに「ずっと前から」「もうすこしで…ところだ。」と意味する場合もある。時間の基準は普通「現在」であるが、過去と将来の決まったある時間にも使える。

1、就+動詞（または形容詞）

* 教養部 ** 中国中南大学

これはある時間点を基準として、「すぐに、もうすぐ」何かをしようとする表現である。

1) 我们现在就出发。/我々は今からは出発する。

2) 小王明天就去买电脑。/王さんはあしたコンピューターを買いに行く。

“我们现在出发。”“小王明天去买电脑。”といっても、中国語では通じる。が、「就」を書き入れると、時間の間隔が短い、動作が迅速に完成される意味を強調できる。1)では、“我们”は出発するという動作をすぐに実行させようという意志を強く表す。2)では、“小王”はコンピューターを買いに行くのは“明日”のことであるが、日本語では明日のことだからすぐに実行できるのかと疑問される可能性が高いが、中国語では「就」を入れると「明日になって、迷わずに早く買いに行こう」と強く表現できる。

3) 我想一个月左右就可以到。/一ヶ月ぐらいで着くと思いますが。

4) 一年以后就回来。/1年の後は戻ってくる。

以上の二つの例には、「就」を使っているが、日本語訳文には「すぐ」とか、「間もなく」とかを入れるのはなかなか難しいようである。が、中国語の場合は、話し手にとっては、“一个月（一ヶ月）”と“一年（1年間）”という時間は実際には長くても、心理的にはそれほど長くなって、ただ「一ヶ月」と「1年間」だけで行動が実現できると判断したり、決心したりするのである。

5) 天很快就亮了。/夜は間もなく明けた。

6) 风就刮起来了。/風がすぐ吹きだした。

例文1) 2) 3) 4) では、「就」は全部将来のことに使われている。が、「就」は将来の近い内にある動作・事情がすぐになされたり、発生したりするとは限らない。過去のことに使える。例文の1) と2) と3) と4) は話し手のいる場面が基点で、現実の話し手がこう言っている時点と現実とに近接しているとか心理的に近接しているとかを「就」を使って表している。が、5) と6) は現実の話し手ではなく、過去のある時間帯にいた話し手がいる場面を基準として言っている。その時の話し手にとっては、話し手がいたその時からすぐに夜が「すぐに明けた」とか、風が「すぐに吹きだした」とか、というふうに動作はなされ、事情は起こる。

続けて、次の例文を見てみよう。

7) 两人从小就认识,真可谓是青梅竹马。/二人とも小さい時から既に知り合って、お馴染みの友だったと言える。

8) 他十五岁就参加工作了。/彼は十五歳でもう就職した。

例文の7) と8) も話し手のいる現実の場面が基点にならないのであって、“二人”と“彼”の誕生時が基点であり、そこから近いところとして、“从小”と“十五岁”の時点が捉えられているのである。ところで、この「近さ」は固定された基準があつての判断ではない。一般的に言って、男と女が“小さい時”から、つまり“子供の時”から知り合いになって、大人になっても、二人とも親しむことはめったにない。親しみが子供の時から続けてくるのは貴重なことである。その子供からの親しみを早めと判断する。同じように例文8) では15歳で、小学校に入学すると

いうのは遅すぎるし、子持ちになるというのは遅すぎるであろう。それと同じように話し手は15歳でまだ学校に通っているのが普通であると考えているため、15歳での就職を早めと判断したのである。だから、「就」を使って、その早めのことを強調する。

9) 火车就要开了。/汽車はもうすぐ発車する。

10) 天就要下雨了。/雨が間もなく降り出す。

この“就要”は“要”と同じように、「もうすぐ」なにかが起こったりするという意味である。時間の間隔が短いを表している。が、“就要”はなお「就」とすこし違って、話し手の主観的判断によって、言う話である。9)と10)では、話し手はいろいろな情報を分析しまとめて、すぐに“汽車が発車する”とか、“雨が降り出す”とか、と判断を下す。

2、動詞句A+就+動詞B

これは動詞句Aが発生する時間を基準として、「すぐに、もうすぐ」動詞Bは発生したりすると意味する表現である。二つの動作が時間的に緊密に相次いで行うことを表す。前後の事柄は常に同じ主語に属するが、別々の主語に属することもある。

11) 他回到宿舍就睡了。/彼は寄宿舎に戻ると、すぐに寝てしまいました。

12) 我们下了课就去锻炼身体。/私達は授業が終わると、すぐに体を鍛えに行きます。

以上の二つの例文は二つの動作の間隔があまり短くて、緊密に相次いで行うと表現する文である。前の動作は終わると、すぐに後の動作は起こる。「一+動詞A、就+動詞B。」とも言える。以上の二つの例文は「一+動詞A、就+動詞B。」の文型を使ったら、次のように直せる。

11) *他一回到宿舍就睡了。

12) *我们一下了课就去锻炼身体。

例文11)と12)では「就」を使って、“寄宿舎に戻る”ということと“授業が終わる”ということのすぐ後に来る動作は“寝る”と“体を鍛える”であって、別の何か余計なことをしないのを強く表している。「就」を使うと緊迫感が伝わってきて、二つの動作が相次いで発生することを読み手が強く感じる。

以上は同じ主語に属する例文である。次の例文は違う主語に属するのである。

13) 他刚出去, 就下雨了。/彼は今出かけたと思うと、すぐに雨が降ってきた。

13)では、動作Aの主語と動作Bの主語は別々で、二つの主語と二つの動作の間に「就」を使って、動作Aの主語は何かをしようとする時、ちょうど動作Bは発生するのを表す。二つの主語の動作はほとんど同時に発生する。13)では、“他”が外に出かけることと“雨”が降ることはほとんど同時に発生すると「就」を通じて、強く表現している。

3、就+動詞

あることが終わっていないのに、もう一つのことが“もう、既に”発生したと強く表現する文型である。動作・事情は通常より早めに発生するという。

14) 于静也没叫我, 我就醒了。/ 于静は私を起こさないように、私はもう既に目がさめました。

15) 还不到五点他就回去了。/ 彼はまだ5時にならないうちに、もう帰ってしまいました。

16) 他只喝了一点就醉了。/ 彼は少し飲んだだけでも、もう酔ってしまいました。

以上の三つの例文の「就」は動作・事情が常識的に思っているより早めに起こると強調している。それに「就」という副詞を通じて、軽く非難したり、残念に思ったりする気持ちが伝わってくる。14) では、“于静”は“我”を起こそうと起こさない時に、“我”はその場で、もう既に目が覚めた、だから私の目が覚めたのは早いなあ、という。15) では、普通五時以後に帰るはずであるが、その日は、“他”はまだ5時にならないと、もう帰ってしまったから、彼にはなにか事情があるとか、或いは彼はそのようなことをしてはいけないとかいう。16) では、“酔うようになる”のは普通の人にとっては、それほど早くないが、彼にとっては、“少し”だけでもう既に酔うようになって、だから彼は本当にお酒に弱いなという。

4、眼看就+動詞・差一点就+動詞

時間の近さを強調する表現である。「もう少しで…ところだ」という意味である。

17) 他眼看就要撞上汽车了, / 彼はもう少しで車にぶつかりそうで…。

18) 李完差一点就要热泪盈眶。/ 李完はもう少しで涙を流そうとするところである。

ここの「就」はあることがもう少しで発生しようとするが、結局発生しないことを表す働きをする。あることが発生するのに近接するのを強調する表現である。「眼看」と「差一点」を省略して、ただ「就」を使うだけで、結構である。以上の二つの例文を次のように直せる。

17) *他就要撞上汽车了, / 彼はもう少しで車にぶつかりそうで…。

18) *李完就要热泪盈眶。/ 李完はもう少しで涙を流そうとするところである。

17) では、“他”は車にぶつからなかったが、もし、もうすこししたら、ぶつかるのでとても危険であると「就」を使って、その緊迫感が伝わってきた。18) では、“李完”は結局涙を流すことをしていないが、もうすこしすれば涙を流すようになるという。ある事情が発生するか、発生しないかという間にあるのを表す表現である。

二、肯定の強調

名詞や動詞や形容詞や助詞などの前に「就」を書き入れ、肯定の判断句を強く表現したり、ある意志や発生したことや発生しようとすることを強調したりする。

1、就+是+名詞

中国語の判断句の様式は「A是B。」である。“是”の前に「就」を書き入れたら、その“是”を強調する。肯定の気持ちを強く伝えてくる。

1) 李老师用的就是这个课本。/ 李先生が使っているのはこの教科書なんだよ。

2) 他就是我们的汉语老师。/ あの方は私達の中国語の先生なのですよ。

以上の二つの例文は判断句の強調を表す文である。1) では、李先生の使っている教科書はほか

でもなく、ちょうど“这个课本”であるのを強く表明する。2) は、“私達の中国語の先生”はだれかという、あの方だよ、他人ではないよ、とはっきりと表明する判断句である。

2、就+動詞（或いは形容詞、助詞など）

「就」を動詞「是」の前に書き入れたら、判断句を強調できる。意志動詞、形容詞などの前に書き入れたら、意志、状態、性状などを強調できる。

3) 我从前就不愿坐公共汽车,常骑自行车去学校。/昔、私はバスに乗るのがいやで、よく自転車で行っていた。

4) 你要的资料,我手头就有。/君のほしい資料はちょうど私の手元にある。

5) 这个花色就好。/この色柄がちょうどいい。

3) では「不愿」という意志を「就」という副詞によって、極めて強く表明している。“我”がよく自転車で学校へ行っているのはバスに乗るのがいやだからであるという。4) と5) では“資料”がちょうど“私の手元にある”から、“あなた”が幸運で、別に探す必要はないとか、“この色柄がとてもよくて、ぴったり合うから別に探す必要がない”とか、といっている。

6) 就在我准备尝第二盆汤时,客厅的门忽然开了。/二つ目のスープを食べようとする時、客室のドアが急に開けてしまっ…。

この例文で「就」は「助詞（介詞）」の前に置き、一つの動作が進行している時、ちょうどその時、もう一つのことが発生することを強調する。“我”がスープを食べることと客室のドアが開けることはほとんど同じ時間に起こると強く表現する文である。

三、数量と範囲の限定

ある数量・範囲がとても多いや広いとか、或いは非常に少ないや狭いとかを強調する表現である。

1、就+動詞+数量・範囲を表す名詞

動詞+就+数量・範囲を表す名詞

これは主部に述べた少しの量だけ述部の多くの量の実現するということを表す文型である。

「だけでもう…」である。中国語“只”と同じ意味である。

1) 学了半年中文。/私はただ半年中国語を勉強しただけだ。

2) 就讲到这儿,明天再讲。/さて、この辺までにして置いて、明日からもう一度述べよう。

3) 这点自由还是有的,但也就只有这点自由。/これぐらいの自由はあるけど、だが、ただこれぐらいの自由だけである。

この三つの例文に使われている「就」は数量がとても少ない、範囲がとても狭いということを表しているが、「ただ…だけ」か「…しかない」とほぼ同じ意味である。が、この文型では主部に述べた多くの量だけ述部の少しの量の実現できないということを表せる。つまり、「就」を動詞の前に使って数量が多い、範囲が広いということを表すことができる。

4) 他就要了三张票, 没剩几张了。/彼だけで入場券を三枚貰っていったので、後は何枚も残っていない。

5) 老周就讲了两个小时, 别人都没有时间谈了。/周さんだけで、2時間も話したので、後の人はもう話す時間がなくなった。

例文の4)と5)は彼の貰った入場券の数量がとても多い、周さんの話す時間がとても長いことを強調する例文である。「…だけでもう」という意味である。「就」を使って、不満だったり、残念だったり、不思議だったりする気持ちが伝わってくる。やや非難する口調が入っていて、マイナスの意味をする。4)では、“他”は入場券をあまりにも貰いすぎて、残っているの枚数が少ないと、不満に言っている。5)では、“老周”は話した時間が2時間もあって、残る時間が少なくて、ほかの人は話せなくなったと非難し、愚痴をもらしているのである。

では、「就」を使って、数量が多いことも少ないことも表せるのであるが、一体どの方の意味か判断するのは問題なる。一つの方法は前後文の関係を見て、判断できるが、もう一つの方法は話をする時、「就」を強く読むと、後に来る数量が少ないことを表明し、「就」を軽く読み、「就」の前の名詞を強く読むことで、数量が多いことを表明している。

2、一+動詞A、就+動詞B（数量を含める動詞）：

数量の多くを強調する。「就」の使い方「時間の限定」で、「一+動詞A、就+動詞B」という文型があつて、「…と、すぐ…」という意味の表現であると述べていたが、この場合は数量が多いことを強調する。例えば：

6) 雨一下就好几天。/雨が降ると何日も続く。

7) 他一写起文章来就是好几个小时。/彼は文章を書き出すと何時間も書きつづける。

6)では「就」を使って、雨が降り出したらとても長い時間が続く、人が希望しているよりも長くて、いやな感じになると強調する。7)では“他”は文章を書き出すと休みもなく、ほかのこともやらないで、文章を書きつづけると、書く時間の長さを強調する。

四、原因・理由と結果

前節は後節の事情・動作の原因・理由で、後節は前節からできた結果であることを強調する表現である。次の例文を見てみよう。

1) 听说只要加入网络就能和外界交换信息, 我就下决心学会电脑。/インターネットに接続すれば、外と情報を交換できると聞いて、コンピューターをマスターしようと決心した。

2) 他觉得有点儿累, 就坐下来休息了一会儿。/彼は少し疲れを感じたので、腰を下ろして、少しの間休みました。

前節は「…のために」「…なので」と原因・理由を表すが、それを表す「因為」は省略できる。そして、前節の原因・理由から後節の結果へ走っていく。原因・理由と結果の関係は「就」によって、結びつかれる。この「就」は時々、日本語の「そこで」にも該当する。1)では“私はコン

コンピューターをマスターしようと決心した”のはインターネットで外と情報を交換できると聞いたからである。情報が交換できると聞いて、“我”はそこでコンピューターをマスターしようと決心するのである。「就」は“情報を交換する”ことと“コンピューターをマスターする”ことを結びつく。2)では“他”が“休息”をすることと“疲れを感じる”ことを「就」を通じて結びつけた。が、ここの「就」は「原因・理由」と「結果」を結びつく働きをするだけでなく、原因・理由から出た結果が早く発生したことを強調する働きもする。

五、距離の近さの強調

「時間の限定」の4の部分では、「就」を使って、“時間の近さ”を強調できると述べてある。実は「就」は距離の近さを強調できる。次の例文を見てみよう。

1) 离这儿不远就有个东来顺饭馆，很有名。/ここから近いところに东来顺料理店があつて、とても有名なのだ。

2) 从前面的红绿灯往左拐，就可以看见车站了。/前の信号から左へ曲がれると、駅が見える。

1) は「就」を使うと、「这儿」を基点として、その基点からとても近いところに“东来顺料理店”があると強く表現できる例文である。2) は“红绿灯往左拐”というところを基点として、“红绿灯”と“车站”がとても近接関係にあることを強調している文である。「就」を省略して言っても通じるが、使ったら二つの場所がとても近いということが強く伝わってくる。

まとめ

以上のように、「就」は中国語で頻繁に使われているが、副詞としての「就」は主に「時間の限定」「肯定か否定」「範囲と数量の限定」「原因・理由と結果」「距離の近接」などを強調する言葉として使われる。「就」を使って、表現しようとすることを強調し、喜ぶ気持ちとか、非難する気持ちとか、残念がっている気持ちは同時に相手に伝わる。

参考文献

- | | | |
|-----------------|--------|------|
| 1、「中日辞典」 | | 小学館 |
| 2、「現代中国語辞典」 | 香坂順一 | 光生館 |
| 3、「中国語」2002年9月号 | | 内山書店 |
| 4、「はじめての中国語」 | 潘潔・卞惟行 | 晃洋書房 |
| 5、「簡明基礎中国語」 | 伊地智善 | 東方書店 |

(平成14年12月3日受理)